

（別紙様式4）

平成28年2月10日現在

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地			
トライデントスポーツ医療看護専門学校	平成11年3月31日	木村 俊介	〒461-8611 愛知県名古屋市千種区今池1-5-31 (電話) 052-735-1608			
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地			
学校法人 河合塾学園	昭和53年8月1日	理事長 河合 弘登	〒461-8611 愛知県名古屋市千種区今池1-5-31 (電話) 052-735-1600			
目 的	はり師・きゅう師の国家試験合格を目指した教育を行うとともに、スキル・マインド・マネジメントを統合した臨床力を身につけ、地域医療に貢献できる施術者を育成する。					
分野	課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
医療	医療専門課程	はり・きゅう学科 (昼間部)	3年(昼間)	2447単位時間	平成22年 文部科学省告示第 153号	—
教育課程		講義	演習	実験	実習	実技
		1530単位時間	204単位時間	0単位時間	713単位時間	0単位時間
生徒総定員		生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
180人		116人	9人	12人	21人	
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日			成績評価	■成績表 (有・無) ■成績評価の基準・方法について 筆記試験・実技試験等による総合判定	
長期休み	■学年始め：4月1日 ■夏 季：8月24日～9月23日 ■冬 季：12月23日～1月3日 ■学 年 末：3月31日			卒業・進級条件	卒業年次において必要単位数を修得していること。 学費を期限までに完納していること。	
生徒指導	■クラス担任制 (有・無) ■長期欠席者への指導等の対応 個別、あるいは保護者同席での面談			課外活動	■課外活動の種類 ■サークル活動 (有・無)	
就職等の状況	■主な就職先、業界等 鍼灸院 ■就職率※1 100% ■卒業者に占める就職者の割合※2 63.9% ■その他(任意) (平成26年度卒業者に関する平成27年3月時点の情報)			主な資格・検定	はり師・きゅう師国家試験受験資格	

<p>中途退学の現状</p>	<p>■中途退学者 10名 ■中退率 8.4%</p> <p>平成26年4月1日在学者 119名（平成26年4月入学者を含む） 平成27年3月31日在学者 109名（平成27年3月卒業生を含む）</p> <p>■中途退学の主な理由 進路変更、学費支払い困難</p> <p>■中退防止のための取組 個別面談、保護者への個人成績表の送付</p>
<p>ホームページ</p>	<p>URL: http://sports.trident.ac.jp/</p>

※1 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

- ①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。
- ②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。
- ③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2 「学校基本調査」の定義による。

全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

1. 教育課程の編成

（教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針）

現場で実践されている新しい知識や技術を学校として吸収し、教育内容に反映していくことを目指す。学生への授業内容についても患者様のニーズに対応した、最新の仕事のすすめ方などを参考にし、教授する。業界が求める人材や今後の業界発展に必要とされる資質、要件などについての知見を得たうえで、教育に取り組んでいくことが重要であるため、関連企業、業界団体、学識経験者等からの要請や提言を聴取し、教育運営に資することを企業等との連携の基本方針としている。はり・きゅう学科では学内の施設で行う臨床実習を、治療院と連携し業界の第一線で活躍している方に担当していただくことにより、現場で役立つ技術だけではなく、接遇や問診の仕方などコミュニケーション能力を身につけることを目指している。

（教育課程編成委員会の全委員の名簿）

平成27年4月1日現在

名前	所属
木村 俊介	トライデントスポーツ医療看護専門学校 学校長
岩田 真二	トライデントスポーツ医療看護専門学校 統括チーフ
服部 吉隆	トライデントスポーツ医療看護専門学校 はり・きゅう学科教員 学科長
近藤 祐介	トライデントスポーツ医療看護専門学校 はり・きゅう学科教員
中川 翔太	トライデントスポーツ医療看護専門学校 はり・きゅう学科教員
山ノ下 藤美雄	一般社団法人 愛知県鍼灸マッサージ師会 会長
徳永 勝哉	有限会社 ガイアそうこ 全体副統括
井馬 庸介	有限会社 ガイアそうこ 往診チーム副統括

（開催日時）

第1回 平成27年 8月25日 15:10～16:30

第2回 平成27年12月15日 15:00～16:00

2. 主な実習・演習等

（実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針）

企業との連携による実習科目においては、治療院の業務を現実的に体感させることを主目的に設定する。患者様への施術を通じて、治療院で日常使われている技術・知識を体験、習得させる。また、学生の評価においても、治療院における現実の評価基準も加味し実施していただく。こうした実習をとおして、社会人基礎力の育成も合わせて目的に設定する。

科目名	科目概要	連携企業等
臨床実習	1・2年次で学んだことを基に、附属治療院で外来業務に当たる。実際に患者さんと接し臨床経験を積むことでさらに施術の関心と理解を深める。さらに、治療以外の受付業務、管理業務なども体験する。	有限会社 ガイアそうこ

3. 教員の研修等

（教員の研修等の基本方針）

専門学校教員として、自己の専門分野における最先端の知識・技術の習得のために、業務上一定の時間を費やすことを学校として求めている。ただし、個人の努力目標のみではなく、業界第一線の知識・技術の習得については学校として機会を積極的に提供していく。また、専門知識のみではなく、授業に関わる技術など教育力向上のための機会についても法人全体の課題として取り組んでいく。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成27年4月1日現在

名 前	所 属
徳永 勝哉	有限会社 ガイアそうこ
小林 忠雄	公益社団法人 愛知県柔道整復師会 こばやし接骨院
岡田 壮市	医療法人珪山会 鶴飼病院
東 裕子	医療法人としわ会 介護老人保健施設 セントラーレ
志知 紀代乃	中日新聞社健康保険組合 中日病院
梶田 昌三	愛知県立明和高等学校
上田 章人	株式会社ストロウハット (ラ・グラッセ山王橋)

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: http://sports.trident.ac.jp/college_guide/documents/index.html

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: <http://sports.trident.ac.jp/>

授業科目等の概要

(医療専門課程はり・きゅう学科) 平成27年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			人文科学Ⅰ (ホスピタリティ マインド)	鍼灸は、東洋医学における心身一如の生体観にそった施術である。自然治癒力を効率的に引き出すためにも、患者さんの満足を第一に考える姿勢が要求される。自らの強みと弱みを知った上で、医療関係者に求められるマナーとサービスマインドを事例に基づいて学び、より感性豊かな施術者を目指す。	1 前	34	2	○		
○			人文科学Ⅱ (東洋学)	鍼灸治療の背景には、先人たちが育んできた東洋思想と実践の歴史がある。東洋学では各時代を代表する人物に焦点をあて、東洋思想・医学の歴史と日常生活との関わりを学び、鍼灸師が代替医療の担い手として重要な役割を持つという意識を育てる。	3 後	34	2	○		
○			自然科学Ⅰ (生物学)	生物学とは、生物および生命現象を学習する学問である。生理学と解剖学の基礎項目である、細胞と組織に焦点を当て、その構造と働きの仕組みを理解することで、生理学と解剖学の習得度向上を目指す。	1 前	34	2	○		
○			自然科学Ⅱ (栄養学概論)	栄養学とは、健康に過ごすための食生活、および栄養学の基礎、代謝について学ぶ学問である。この科目では、食物として摂取した栄養素がどのように消化・吸収され、生体に必要なエネルギー源になるのか、また、それぞれの栄養素および働きについての基礎を学び、人の健康管理に携わる者としての基本的知識を修得する。	1 前	34	2	○		
○			自然科学Ⅲ (漢方薬草学入門)	漢方薬は、鍼灸とともに東洋医学における重要な治療法の一つである。今日では、医療機関で漢方薬を処方されることが少なくないことから、身近な例を通して漢方薬の基本的な処方の考え方や効能について学ぶ。	3 後	34	2	○		
○			社会科学 (臨床心理学)	精神疾患の基本を、鍼灸師としてのかかわり方、注意すべき点などを事例をもとに学ぶ。	3 前	34	2	○		

○		保健体育 (運動学)	人間の基本構造を解剖学・生理学で理解し、その上で関節運動のメカニズムを学び、施術者として臨床現場で運動器疾患の予防・治療に役立てることを目標とする。	2 後	34	2	○		
○		解剖学Ⅰ	骨学に重点をおき、身体各部位名称と方向用語、体幹骨（頸椎・胸椎・肋骨・腰椎・仙尾骨）とその特徴、上肢骨（肩関節・肘関節・手関節）とその特徴を学ぶ。	1 前	34	2	○		
○		解剖学Ⅱ	骨の位置と部位名の把握、骨の形態と触診を学ぶ。画像や模型を多用し骨・筋の各部位をイメージし、触診できるようにする。	1 後	34	2	○		
○		解剖学Ⅲ	循環器系、呼吸器系、内分泌系について各部の場所と名称を覚え、各臓器の構造と機能を理解し、臓器の機能異常による疾患などを理解する。	1 前	34	2	○		
○		解剖学Ⅳ	中枢神経、末梢神経の名称、位置関係と機能を関連づけて学んでいく。神経系は全身を構成する器官がはたらくために必要な伝達経路である。神経組織に異常をきたした場合どのような症状が起きるかを理解するため、神経の機能と位置を把握する。	1 後	34	2	○		
○		解剖学Ⅴ	筋の形状・起始・停止・神経支配・作用を理解し、イメージできるようにする。	1 後	34	2	○		
○		解剖学Ⅵ	中枢神経、末梢神経の名称、位置関係と機能を関連づけて学び、神経組織に異常がきたした場合に身体にどのような症状が起きるかを理解する。	2 前	34	2	○		
○		生理学Ⅰ	生理学基礎、血液の組成・作用・凝固・血液型、循環器系および呼吸器系の機能を学習する。身体各部の正常な機能の仕組みを正しく理解し、その破綻の結果として生ずる疾患の成り立ちと、対処法（予防法・診断法・治療法）を理解するための基礎とする。	1 前	34	2	○		
○		生理学Ⅱ	栄養と代謝、体温、排泄、生殖・成長と老化について学習する。身体各部の正常な機能の仕組みを正しく理解し、その破綻の結果として生ずる疾患の成り立ちと、対処法（予防法・診断法・治療法）を理解するための基礎とする。	1 後	34	2	○		
○		生理学Ⅲ	神経、内臓の自律神経調節を学習する。身体各部の正常な機能の仕組みを正しく理解し、その破綻の結果として生ずる疾患の成り立ちと、それへの対処法（予防法・診断法・治療法）を理解するための基礎とする。	1 前	34	2	○		

○		生理学Ⅳ	筋、運動、感覚、生体の防御機構を学習する。身体各部の正常な機能の仕組みを正しく理解し、その破綻の結果として生ずる疾患の成り立ちと、それへの対処法（予防法・診断法・治療法）を理解するための基礎とする。	1 後	34	2	○		
○		生理学Ⅴ	消化と吸収、感覚器、ホメオスタシスと生体リズムを学習する。身体各部の正常な機能の仕組みを正しく理解し、その破綻の結果として生ずる疾患の成り立ちと、それへの対処法（予防法・診断法・治療法）を理解するための基礎とする。	1 後	34	2	○		
○		病理学概論Ⅰ	人体で生じる様々な病気の成り立ちを学び、病気によって臓器や細胞などで起きている変化を知り、病態把握や予後の判断の知識を身につけ、他の病気との鑑別、治療効果、死の原因等、病変について、鍼灸師として対応すべくまた、国家試験に応じれるよう学習する。 1. 病因について：内因・外因 2. 循環系について：血液、循環経路	2 前	34	2	○		
○		病理学概論Ⅱ	人体で生じる様々な病気の成り立ちを学び、病気によって臓器や細胞などで起きている変化を知り、病態把握や予後の判断の知識を身につけ、他の病気との鑑別、治療効果、死の原因等、病変について、鍼灸師として対応すべくまた、国家試験に応じれるよう学習する。 1. 萎縮と変性、壊死と死、創傷・組織内異物 2. 炎症、腫瘍、免疫異常・アレルギー	2 後	34	2	○		
○		衛生学・公衆衛生学	衛生学・公衆衛生学は人が健康に生きていくために重要な問題を明らかにし、それを解決するための対策や視点を提示する。この科目では、健康に関わること、すなわち生活環境、産業保健、精神保健、疾病予防など幅広く学ぶ。	3 前	34	2	○		
○		臨床医学総論Ⅰ	どのように問診・診察・検査を行って病態を把握するかについて学ぶ。 また、鍼灸師として関連が深い症候を、原因と対処法について、現代医学的な視点から、臨床に必要な診察、医学知識、技能などを養う。 1. 診察の概要：意義、診察の記録の目的。 2. 診察の方法：意義と種類・方法。 3. 生命徴候：意義と種類・方法。 4. 全身の診察：意義と種類・方法。 5. 局所の診察：意義と種類・方法。	2 前	34	2	○		

○		臨床医学総論Ⅱ	<p>どのように問診・診察・検査を行って病態を把握するかについて学ぶ。</p> <p>また、鍼灸師として関連が深い症候を、原因と対処法について、現代医学的な視点から、臨床に必要な診察、医学知識、技能などを養う。</p> <p>1. 神経系の診察 2. 運動機能検査 3. 臨床検査法</p>	2 前	34	2	○		
○		臨床医学総論Ⅲ	<p>どのように問診・診察・検査を行って病態を把握するかについて学ぶ。</p> <p>また、鍼灸師として関連が深い症候を、原因と対処法について、現代医学的な視点から、臨床に必要な診察、医学知識、技能などを養う。</p> <p>1. おもな症状の診察法 2. 治療学 3. 臨床心理</p>	2 後	34	2	○		
○		リハビリテーション医学	<p>リハビリテーションとは、障害をもった人々が共に地域社会で暮らすための方法を追求することである。具体的には各疾患の問題とリハビリテーションの実際について学び、正しい知識を身に付け、チーム医療の一員として参加することを想定した準備を整えることを目的とする。また国家試験に対応すべく能力を養う。</p>	3 前	34	2	○		
○		臨床医学各論Ⅰ	<p>臨床各科における疾患について現代医学視点から、全体像、原因、症状、検査、治療、予後について基本的知識を学習する。</p> <p>1. 感染症 2. 消化器疾患 3. 肝・胆・膵疾患 4. 呼吸器疾患</p>	2 前	34	2	○		
○		臨床医学各論Ⅱ	<p>臨床各科における疾患について現代医学視点から、全体像、原因、症状、検査、治療、予後について基本的知識を学習する。</p> <p>1. 腎臓疾患 2. 感染症と腫瘍性疾患 3. 下垂体疾患 4. 甲状腺疾患 5. 糖・脂質・尿酸代謝異常</p>	2 後	34	2	○		
○		臨床医学各論Ⅲ	<p>臨床各科における疾患について現代医学視点から、全体像、原因、症状、検査、治療、予後について基本的知識を学習する。</p> <p>1. 関節疾患、変形性関節症 2. 骨代謝性疾患、骨腫瘍 3. 脊椎疾患、脊髄損傷 4. 頸部脊柱管狭窄症、腰部脊柱管狭窄症</p>	2 後	34	2	○		

			5. スポーツ外傷・障害						
○		臨床医学各論Ⅳ	臨床各科における疾患について現代医学視点から、全体像、原因、症状、検査、治療、予後について基本的知識を学習する。 1. 血液・造血管疾患 2. 神経疾患	3 前	34	2	○		
○		臨床医学各論Ⅴ	臨床各科における疾患について現代医学視点から、全体像、原因、症状、検査、治療、予後について基本的知識を学習する。 1. 膠原病 2. 小児科疾患 3. 一般外科 4. 婦人科疾患 5. 皮膚科・眼科・耳鼻咽喉科疾患	3 後	34	2	○		
○		医療総論	1. はり師きゅう師の資格を取得し業務を行う上で理解しておくべき法令について理解する。 2. 医療従事者として身に付けておくべき医療制度・社会保障制度に関する知識や医療倫理について学ぶ。	3 前	34	2	○		
○		東洋医学概論Ⅰ	東洋医学的な視点から、正常な人体のしくみ（構造）とはたらき（機能）について理解する。まず古代中国人の物事に対する捉え方（思考方法）の概要を理解し、それに基づいて説明される五臓や気血津液のはたらきについて理解を深める。これにより、第2学年の「東洋医学概論Ⅲ」において、東洋医学的な疾病観・診断法・治療法を学ぶための基礎力を養う。	1 前	34	2	○		
○		東洋医学概論Ⅱ	「東洋医学概論Ⅰ」に引き続いて、六腑や奇恒の腑などのはたらき（機能）について学習する。また、疾病を引き起こす原因（病因）と東洋医学的な診療法（四診）の概要を理解する。これにより、第2学年の「東洋医学概論Ⅲ」において、東洋医学的な疾病観・診断法・治療法を学ぶための基礎力を養う。	1 後	34	2	○		
○		東洋医学概論Ⅲ	東洋医学的な視点から、疾病の成り立ち（病機）とその分類（各種病証）について学ぶ。これにより、第2学年後期からの「東洋医学臨床論Ⅲ・Ⅳ」において、東洋医学的な診断（病証の鑑別＝弁証）を学ぶための基礎力を養う。	2 前	34	2	○		
○		東洋医学概論Ⅳ	経絡病証や外感病証等の概要を学習する。また、東洋医学の治療総論および病証に応じた代表的な腧穴の効能（作用）・選穴・配穴法について学ぶ。	2 後	34	2	○		

			これにより、第3学年の「東洋医学臨床論Ⅳ」において、弁証論治（病証の鑑別、治療法の決定）を学ぶための基礎力を養う。						
○		経絡経穴概論Ⅰ	鍼灸治療における土台であり、基礎知識・技能であるツボ（腧穴）について学ぶ。気血の通路である経絡と病気の際の反応点・診断点・治療点である腧穴について、概要を理解する。	1 前	34	2	○		
○		経絡経穴概論Ⅱ	十四の経脈ごとに、大まかな流れ（流注）を理解するとともに、その経脈に所属する経穴について1つずつ学ぶ。経穴の名称や部位を覚えるとともに、重要なものについては作用を理解し、また実際に人体で取穴できるようにする。	1 後	34	2	○		
○		経絡経穴概論Ⅲ	第1学年後期の「経絡経穴概論Ⅱ」に引き続いて、残りの経脈の流注概要と経穴を学んだのち、奇経・奇穴などについて学習する。経穴の名称や部位を覚えるとともに、重要なものについては作用を理解し、また実際に人体で取穴できるようにする。	2 前	34	2	○		
○		はりきゅう理論	現代科学的視点から鍼灸の治効理論（作用機序、治療効果）、関連学説についての知識を養う。皮膚や組織加えられた刺激により始まる回復（自然治癒力）がどのように作用するか、また皮膚に存在する受容器（センサー）や神経線維（導線）、解析システム（中枢）について今まで履修した生理学知識をもとに学ぶ。	3 前	34	2	○		
○		東洋医学臨床論Ⅰ	現代医学的視点から治療の適・不適を判断し、標準的な鍼灸の治療方針を導き出せることを目標とする。 1. 主要な症候の症状・所見から、鍼灸治療の適・不適の説明。 2. 現代医学的鍼灸の治療方針と処方の説明。	2 前	34	2	○		
○		東洋医学臨床論Ⅱ	現代医学的視点から治療の適・不適を判断し、標準的な鍼灸の治療方針を導き出せることを目標とする。 病態・所見から鍼灸の適応・不適応を判断し、適切な治療方針を導き出せる事を目標とする。	2 後	34	2	○		

○		東洋医学臨床論Ⅲ	東洋医学的な視点から、代表的な症候について、病因（病の原因）・病機（病のメカニズム）・病証・症状の特徴・治療方針を学ぶ。与えられた四診（診察）情報をもとに、弁証（病証の鑑別）を進めていく手順について理解する。	2 後	34	2	○		
○		東洋医学臨床論Ⅳ	第2学年後期「東洋医学臨床論Ⅳ」に引き続いて、東洋医学的な視点から、代表的な症候について学習する。 与えられた四診情報をもとにして、さらに必要な追加質問を行い、そのうえで「弁証（理）→治法（法）→選経・選穴・配穴（経・穴・方）」という弁証論治の流れを、自分の力で行うことのできる力を養う。	3 前	34	2	○		
○		臨床演習論Ⅰ	解剖学で学んだ知識をもとに、運動器疾患を中心に、視診・問診・触診・考察と診断・治療計画の立案・治療法・セルフケア・リハビリといった内容を学び、機能異常と正常を鑑別する能力を養う。	2 後	34	1			○
○		臨床演習論Ⅱ	3年次から始まる臨床実習（附属鍼灸院実習）の事前準備として、医療面接、バイタルチェック、POシステム、カルテの記載、身体観察法など基本的な知識、技術を学ぶ。そして、患者さんとの良好な人間関係を築くことを目標とする。	2 後	34	1			○
○		社会はり・きゅう学	はり師・きゅう師を取り巻く環境は、社会保障政策の改革や社会構造の変化という大きなうねりの中で激動していくと思われる。現在は日本における東洋療法1300年の歴史の中で、大きな転換の時期を迎えている。このような現状を踏まえ、はり師・きゅう師の果たすべき役割について学び、社会的ニーズの多様化に対応できる能力を養う。	3 後	34	2	○		
○		鍼灸基礎実習Ⅰ	はり師として最低限必要な刺鍼技術を習得する。 1. 医療人としての心構え、技術を学ぶ 2. 施術上の注意について学ぶ 3. 刺鍼の基本実技 特に管鍼法について学ぶ	1 前	34	1			○
○		鍼灸基礎実習Ⅱ	痛くない鍼をするための刺鍼技術について基礎を学ぶ。 最初は練習機を用いて練習し、その後自分の身体・他人の身体に刺鍼する。	1 後	34	1			○
○		鍼灸基礎実習Ⅲ	灸術の基本知識や危険性を理解し、安全に配慮することができるようになることを目指す。	1 前	34	1			○

			1. 用具の使用方法や衛生管理 2. 米粒大の艾炷を作ることができる。 3. はりきゅう理論の灸術の部分の理解						
○		鍼灸基礎実習Ⅳ	解剖の知識を基に各部位の体表観察を行い、主要経穴に安全に灸が据えることができるようにする。	1 後	34	1			○
○		鍼灸基礎実習Ⅴ	全身の各部位に適した取穴法を学びながら刺鍼術を習得することを目的とする。また、鍼灸基礎実習Ⅰ・Ⅱで学んだ技術をより正確でスムーズに行えるよう繰り返し練習し、技術の修練をはかる。	1 後	34	1			○
○		鍼灸基礎実習Ⅵ	全身の各部位に適した取穴法を学びながら刺鍼術を習得することを目的とする。また、鍼灸基礎実習Ⅰ・Ⅱで学んだ技術をより正確でスムーズに行えるよう繰り返し練習し、技術の修練をはかる。	2 前	34	1			○
○		鍼灸基礎実習Ⅶ	鍼灸基礎実習Ⅰ・Ⅲで学んだ技術を、より正確に行えるように復習する。 1. 医療人としての心構え、マナーなど。 2. 衛生的な刺鍼技術。 3. 刺鍼・施灸の練習。 4. はりきゅう理論の再確認。	1 前	34	1			○
○		鍼灸基礎実習Ⅷ	体表に表れる反応や障害部位を確認するために必要な触診の基本を行うことにより、触診の基礎を理解し、身体の個体差を知り、感覚の豊かな手をつくる。	1 後	34	1			○
○		鍼灸基礎実習Ⅸ	1年生で学習した骨学・筋学をもとに触診ができるようにする。正しい触診ができた後に、正しく取穴することをねらいとする。 1. 全身の主要な関節ごとに骨指標を探し出す。 2. 骨指標をもとに筋肉、腱、靭帯、神経、動脈の構造を見つける。 3. 正しく触診できるようになったら取穴を行い、指示どおり刺鍼する。	2 前	34	1			○
○		鍼灸応用実習Ⅰ	1年次に勉強した経絡経穴の知識を確認しながら鍼灸基礎実習で学習した鍼術を用いて、運動器疾患に対する治療法を学ぶ。そして、実際の治療に役立つ内容を身につける。	2 前	34	1			○
○		鍼灸応用実習Ⅱ	1年次に勉強した経絡経穴の知識を確認しながら鍼灸基礎実習で学習した鍼術を用いて、運動器疾患に対する治療法を学ぶ。そして、実際の治療に役立つ内容を身につける。	2 後	34	1			○
○		鍼灸応用実習Ⅲ	鍼灸基礎技術を基に、実地に即した治療法を学ぶ。小児はり、井穴刺絡などの特殊鍼法、全身調整法、特殊な部位への刺入法を体験する。これらを通じて臨床応用の基礎技術を学	2 前	34	1			○

			ぶ。						
○		鍼灸応用実習Ⅳ	鍼灸基礎技術を基に、実地に即した治療法を学ぶ。小児はり、井穴刺絡などの特殊鍼法、全身調整法、特殊な部位への刺入法を体験する。これらを通じて臨床応用の基礎技術を学ぶ。	2 後	34	1			○
○		鍼灸応用実習Ⅴ	臨床でよく見られる代表的な疾患を取り上げ、必要な知識、技術を学ぶ。内科系では、頭痛、風邪、胃腸疾患、高血圧、月経異常、自律神経失調症など、外科系では、寝違い、ぎっくり腰、肩関節痛、腰下肢痛、膝関節痛、肘の痛みなどを取り上げる。	3 前	34	1			○
○		鍼灸応用実習Ⅵ	臨床でよく見られる代表的な疾患を取り上げ、必要な知識、技術を学ぶ。内科系では、頭痛、風邪、胃腸疾患、高血圧、月経異常、自律神経失調症など、外科系では、寝違い、ぎっくり腰、肩関節痛、腰下肢痛、膝関節痛、肘の痛みなどを取り上げる。	3 前	34	1			○
○		鍼灸応用実習Ⅶ	臨床でよく見られる代表的な疾患を取り上げ、必要な知識、技術を学ぶ。内科系では、頭痛、風邪、胃腸疾患、高血圧、月経異常、自律神経失調症など、外科系では、寝違い、ぎっくり腰、肩関節痛、腰下肢痛、膝関節痛、肘の痛みなどを取り上げる。	3 後	34	1			○
○		鍼灸応用実習Ⅷ	臨床でよく見られる代表的な疾患を取り上げ、必要な知識、技術を学ぶ。内科系では、頭痛、風邪、胃腸疾患、高血圧、月経異常、自律神経失調症など、外科系では、寝違い、ぎっくり腰、肩関節痛、腰下肢痛、膝関節痛、肘の痛みなどを取り上げる。	3 後	34	1			○
○		臨床実習	1・2年次で学んだことを基に、附属治療院で外来業務に当たる。実際に患者さんと接し臨床経験を積むことでさらに施術の関心と理解を深める。さらに、治療以外の受付業務、管理業務なども体験する。	3 通	13 5	2			○
○		施術所経営学	治療院開業に必要な手続や、法的知識、広告・宣伝の仕方、保険制度の概要・税務、はやるコツなど治療院の経営方法について総合的に学ぶ。	3 前	34	2		○	
○		総合演習Ⅰ	解剖学を対象にして総復習を行い、国家試験で基準点以上を確実に得点できるようにする。授業前の自己学習を学習の中心に位置づける。授業では演習問題の解答作業を通じて理解度を再確認し、また解説を通じて疑問点の	3 後	34	2			○

			解消や要点の把握を行うことで、必要知識を確実に定着させる。						
○		総合演習Ⅱ	生理学を対象にして総復習を行い、国家試験で基準点以上を確実に得点できるようにする。 授業前の自己学習を学習の中心に位置づける。授業では演習問題の解答作業を通じて理解度を再確認し、また解説を通じて疑問点の解消や要点の把握を行うことで、必要知識を確実に定着させる。	3 後	34	2		○	
○		総合演習Ⅲ	臨床医学総論・臨床医学各論を対象にして総復習を行い、国家試験で基準点以上を確実に得点できるようにする。 授業前の自己学習を学習の中心に位置づける。授業では演習問題の解答作業を通じて理解度を再確認し、また解説を通じて疑問点の解消や要点の把握を行うことで、必要知識を確実に定着させる。	3 後	34	2		○	
○		総合演習Ⅳ	経絡経穴概論・東洋医学概論を対象にして総復習を行い、国家試験で基準点以上を確実に得点できるようにする。 授業前の自己学習を学習の中心に位置づける。授業では演習問題の解答作業を通じて理解度を再確認し、また解説を通じて疑問点の解消や要点の把握を行うことで、必要知識を確実に定着させる。	3 後	34	2		○	
合計				69 科目	2447 単位時間 (120 単位)				